トップリーグチーム　代表者　各位
三地域協会レフリー委員長　各位
全国都道府県レフリー委員長　各位
レフリー　各位

平成21年7月27日
日本協会審判委員会
委員長　岸川　剛之

競技規則に関するIRB確認結果ご連絡

日頃審判委員会活動にご支援･協力賜りまして誠に有難うございます。本年度全国レフリー委員長会議及びトップリーグ合同会議において確認依頼のありました項目について、IRB関係部門の確認結果をご連絡しますので、宜しくご承知の上、関係者に周知下さる様お願いします。

1．IRB確認項目
(1) スクラムにおけるボール獲得後のスクラムハーフの移動について
(2) 15条　タックラーの定義について
(3) ラインアウトにおけるレシーバーの動きについて

2．IRB確認結果
(1) スクラムにおけるボール獲得後のスクラムハーフの移動について

ELV-2008-4　ボールを獲得しなかった側のスクラムハーフは次の2つの内1つを行うことができる。

a．同じ側にとどまったまま、ボールを追う
b．スクラムの最後尾の足に直接戻り、オフサイドラインの後方の好きな位置にいる

上記aを選択したボールを追っていたスクラムハーフは、いつでも味方のスクラムの最後尾のプレーヤーの足のオフサイドラインに下がることができる。
ただし、その際スクラムの側にとどまり下がることが条件です。
また、bを選択したスクラムハーフは、前へ出ることはオフサイドになるのでボールを追う位置に移動することはできない。(添付資料1　図－1，2参照)

⑵ 15条　タックラーの定義

相手プレーヤーでボールキャリアを捕まえて地面に倒し、かつ自身も地面に倒れたプレーヤーをタックラーと呼ぶ。ボールキャリアを捕まえていても地面に倒れなければ、タックラーではない。

地面に倒れたプレーヤーの定義は、片膝あるいは両膝、または体の膝より上の部分のどこかが地面に着いていてれば、そのプレーヤーは地面に倒れたことになる。プレーヤーが立っているには、地面に足が着いていて、体の膝より上の部分のどの部分も地面に着いていてはならない。

⑶ ラインアウトにおけるレシーバーの動きについて

a．ラインアウト開始前にレシーバーの入替はできる。(競技規則　19.8 (k))

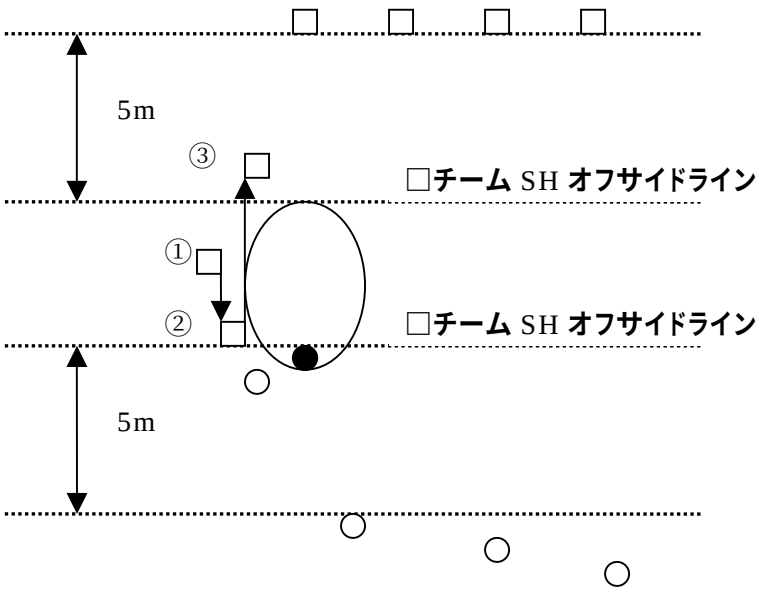
b．ラインアウト開始前にレシーバーはラインアウトに参加できない。(19.8 (i))

C．ラインアウト開始後にはレシーバーはラインアウトに参加することはできる。(19.11例外2)

以上

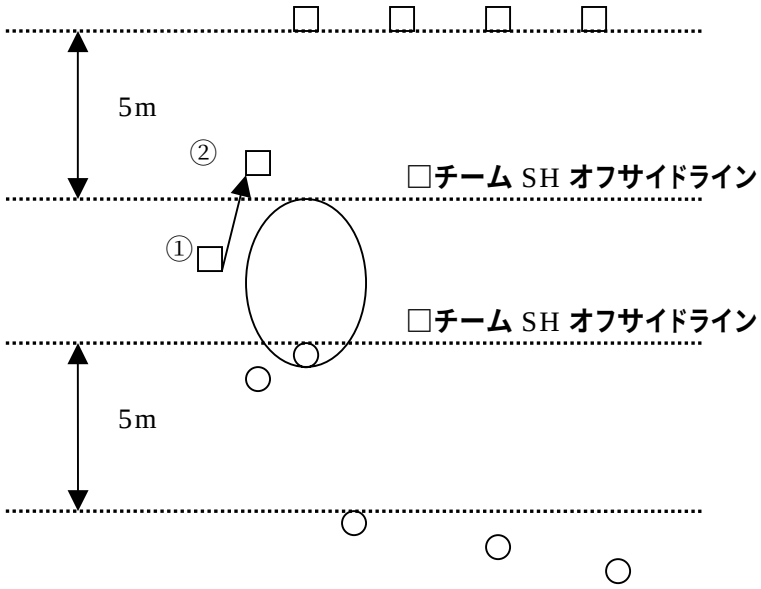
添付資料1

図－1



ボールを追う位置（②）からスクラム最後尾ライン後方（③）に下がって良い。

図－2



ＳＨ位置（①）からスクラム最後尾ライン後方（②）に下がった場合は、オフサイドラインから前に出られない。（ボールの位置に戻れない）